

# 「探究」する学生たち

苫野一徳(教育学科)

# Findings

- 「言われたことを言われた通りに」「みんなと同じことを、同じペースで、黙って、座って、先生の話聞く」学びしか経験してこなかった学生たちも、半年間、安全安心の空間の中で個人やチームでの「探究」の経験を積みめば、立派な「探究者」になる。
- 教員は、学生たちの「共同探究者」「探究支援者」になる。学生は、教員から一方的に教わるのではなく、教員を徹底的に「活用」する。（研究者は「教えるプロ」ではないが「探究のプロ」。すぐれた探究支援者になれる。）

# Findings

- 実りある「探究」のためには、まず関心あるテーマに浸りきること、膨大な知識・情報を獲得することが必要。(→学生たちは、膨大な資料を読んだり視察に行ったりする。)
- 学生たちは、お互いの「探究」のプロセスや成果を通して、学び合ったり刺激し合ったりする。

# 教員養成課程の学生たちに、 できれば学び取ってほしいこと

- 「言われたことを言われた通りに」「みんなと同じことを、同じペースで、黙って座って先生の話聞いてノートを取る」学びは、「学び」のごくごく一部にすぎないということ。
- このような、150年前に人類史上初めて発明され、以来ずっと変わらずにきた「学校」での学びの姿が、「落ちこぼれ・吹きこぼれ」問題をはじめとする現代の教育問題の根底にあることを理解すること。

# 教員養成課程の学生たちに、 できれば学び取ってほしいこと

- 「学び」とは「探究」にほかならないということ。それはつまり、「自分(たち)なりの問いを立て、自分(たち)なりの仕方、自分(たち)なりの答えにたどり着く学び」。
- 「探究」の過程で、基礎的知識から高度な知識まで獲得できるということ。(互いの成果を交換し合う過程でも)
- 「学びのコントローラー」は、教師ではなく学習者が持っているのだということ。
- 「学びのコントローラー」を子どもたちに委ね、とことん信頼し、任せ、そして支える教師になってほしい。